

分類	日本語教育への支援・活動者への理解	
報告者からの意見	<p>第2回会議 9月9日実施</p> <p>(1)教育委員会からの報告 京都市立学校の日本語指導については、まだまだ十分な体制ではないが、できることを少しずつでも行い、良い方向へ進めていきたい。</p> <p>(2)フィリピン系のこどもたちと学ぶ会からの報告 同会からの意見として、以下のものが挙げられた。 ・高校進学には外国籍の子どもに配慮した特別入学枠が必要である。 ・国際理解教育については、海外のことや世界のことを学ぶだけではなく、日常的に外国人と暮らしていくことについての理解を進めていただきたい。 ・京都の強みであるまちづくり活動の一環として、日本語教育活動を推進していただきたい。 ・外国人通訳ボランティアなど、支援する方に対する処遇改善や理解を進めていただきたい。 ・日本人がやさしい日本語を使うよう努めていただきたい。</p>	
	発言委員	意見
1	木之本	区役所での住所変更の手続きなどは日本語が分からないと大変であり、区役所に外国人用の窓口があれば良いと思う。また、書類などの漢字の読み書きが困難であり、更に書いている書類の中身が難しく分からないため、英語や他の言語で記載内容の説明をしてもらうことができれば助かる。
2	木之本	日本語が難しいことが、外国人にとっては一番問題であり、学校の勉強がとても大変である。
3	安藤	外国にルーツを持つ子どもへの対応に特化した場所を設定し、そこでの学習を経てから入学した方が子どもたち・親・学校にとっても良いのではないかと思う。
4	蔡	日本語教師の方は実習の際に生徒が必要であるが、実際は実習の生徒がいなくて困っていると聞いている。そのため、生徒をアルバイトで募集しているとも聞いている。そういう方も連動すれば、日本語を教えるクラスを作ったりと、今後何か可能性が出てくるのではないかと思う。こうした連携ができれば、フィリピンだけではなく他の国の方も利用できる可能性が出てくると思う。
5	蔡	京都にある日本語学校の留学生とこうした小中学生を繋げる事ができたらよいと思う。
6	蔡	大学の研究者の中には、日本に在住する外国人の実態調査として教育調査をテーマに修士論文を書いている者もいる。こうした、大学で研究する方も連携しながら教育のサポートをすることができたら良いと思う。外国にルーツを持つ子どもたちの日本語のサポートをするということができれば、研究者にとっても、子どもたちにとってもお互いにプラスになると思う。
7	蔡	留学生が集中しているような拠点があれば、外国にルーツを持つ子どもたちもそうした場所では話をしやすいのではないかと思う。
8	浜田	学校等へ派遣される通訳の方へのリスペクトをして頂きたい、また、教員の方々については、外国籍の児童・生徒等にとって何が課題かを認識していただきたい。来日された方にはどんな困りがあるか、想像力・共感力を持っていただきたい。子どもたちへの対応についての想像力を持って対応をしていただきたい。
9	浜田	今後、ますます事実上の移民が増える事が予想される。このため、学校の教育制度や学校からはみ出る部分は、地域との連携などの体制を作ることが必要であると思う。
10	西岡	日本語指導に関しては、充実してきているようだが、まだまだ様々な手法を用い、行政や地域、その他の機関などと連携をしていく必要がある。
11	西岡	外国人を支援する人を大切にする事は重要であり、また支援してくれる人に依存しているだけではいけない。

分類	多文化共生を理解する能力向上・多文化共生を広める人材育成	
報告者からの意見	<p>第3回会議 11月13日実施</p> <p>○京都市伏見青少年活動センターからの報告 多文化共生を行う団体と、青少年をつなげることで、多文化共生を推進する人材育成を行うことが必要である。</p> <p>○京都市国際交流協会からの報告 ボランティア活動をする方の横のつながりを作り、また活動に役立つ情報提供を目的に、人材育成事業を行うとともに、ボランティアの活動拠点を広げていくことが必要である。</p>	
	発言委員	意見
12	浜田	多文化共生の推進を自らの仕事としたり、専門としている人材の育成も必要であり、大切である。また、一方でこうした人材の他に、いわゆる普通の方に多文化共生の意識を持ってもらい、興味を持ってもらうことも大切だと思う。仕事としてや、専門的に関わる人材だけではなく、多文化共生を広めていくという意味での人材育成も必要だと思う。
13	浜田	学生が社会人になった時、学生時代の多文化共生の活動の中で培ったものを発揮したり、また、それぞれの職場で多文化共生の意識を持って仕事をするのが大事だと思っている。
14	浜田	大学生を育成し、根付かせていくことは大変であり、就職などを機に活動を辞めていくこともあるが、大学生に多文化共生の活動に関わってもらうことは必要だと思う。
15	浜田	現役で働いている方が多文化共生にどのように関わっていくことができるのかを考えたい。
16	タカノ	多文化共生を考える上で、大学での教育だけではなく、実際に地域に住む方と共に活動をし、問題解決をする自治会・町内会の役割は大事だと思う。
17	タカノ	地域活動に留学生や大学生などの若い方も一緒に活動ができると、大きなイベントも盛り上げることができる。
18	タカノ	例えばゴミの出し方、騒音がうるさい人にはどのようにして声を掛けたら良いのか、など違った文化背景について話し合えるように、地域の方に対して生活に密着した情報を提供することが必要である。
19	タカノ	生活する上でお互いの交流や、また、自治会や町内会でまとめていく立場にある人との意見交換、またこうした人たちとの横の繋がりにも外国に文化的背景がある人についての研修やそうした方との出会いの場を持つなど、一歩踏み込んだ話し合いが必要であると思う。
20	辻	留学生は周囲の日本人や日本社会とつながる機会が多いが、一般の外国人の方は周囲とつながる機会が少ない。
21	山内	国際交流協会では、京都大・京都教育大の協力を得て留学生の方に登録していただき、市内の小中学校に訪問し国際理解を進めるような取り組みを行っており、今後もこうした取り組みの充実を図りたい。
22	山内	国際交流会館の施設を社会見学として幼稚園～高校生までを受け入れ、事業を紹介したり、留学生に学生へ話をしたりと様々な切り口で取組んでおり、こうした取組みから多文化共生の理解を進めたい。
23	西岡	小中高の教育から家庭教育、自治会での理解など人材育成は様々な分野へ繋げる必要がある。
24	西岡	多くの働く方や定年退職をされた方が、多文化共生を推進する人材として活躍できるような社会になってほしい。
25	西岡	地域との連携を進めることは必要である。
26	西岡	自治会の活動をされている方同士の連携も必要である。
27	西岡	大学や企業などの他の団体とどのように連携していくかが重要だと思う。
28	西岡	多様化への対応の資質の向上は教員にとって必要である。地域との連携の難しさもあるが、これは市民全体が持つべき力であると思う。
29	西岡	多様な文化的背景を持つ人を理解する能力を高めていかなければならないと思う。

分類		活動拠点拡大・拠点の機能強化	
報告者からの意見		第3回会議 11月13日実施 内容は2ページに同じ	
発言委員		意見	
30	金	ボランティアが活動する拠点を拡大すること重要である。活動拠点が近くないと、参加したい気持ちがあったとしても、社会人や学生も活動になかなか参加できない。	
31	金	私が勤務している学校の近くにも国際交流協会がある。そこでの悩みは、空間はあるものの、活用の仕方が分からなく、空間をうまく機能できていないことであると聞いている。一方で、こうした空間を求めている方がいるのも現状である。これらをどのように繋いでいくのが課題になっている。空間は様々なところに分散しており、利用者はどこに行ったらよいか分からなくなっており、これらを繋げていくことが大切だと思う。	
32	辻	外国人が利用できるアクセスポイント(伏見青少年センターのような場所)が少ないと実感している。	
33	水野	青少年センターの活動が、多文化共生社会に向けた若者の力づくりになっているかと考えると難しいと思う。まだまだ課題があると思う	
34	西岡	必要とされる地域の近くで活動を実施することが重要である。	
その他の意見			
35	外国籍市民等の活用	オダン	日本人が日本語や日本文化を教えるだけではなく、外国人が教える英語教室や中国語教室があればもっと面白くなると思う。
36	市内の資源の活用	三保	京都市の資源の活用である。京都には大学や神社仏閣など多くの資源があるが、そうした資源を十分に活用できていない。
37	日本人と留学生の交流促進	蔡	各大学には様々な大学生がおり、各国の留学生会が活動をする中、日本人と一緒に活動することが難しいという留学生会もある。そういうところと、日本人の青少年を結びつけ交流を進めることができたら良いと思う
38	活動の効果的な広がり	西岡	多文化共生に関する活動をされている方が、うまく循環できるように、京都市にも支援をお願いしたい
39	情報提供	西岡	取組をされている情報が、その情報が必要な方へ入ってこないことは問題である。
40	複合的意見	西岡	多文化に関する対応の資質の向上、行政の必要性、ボランティアの方への対応、高校進学に関する具体的な施策の検討が必要である。